

光受寺通信

NO.176

発行元 光受寺



8月の猛暑の中、80代の男性が亡くなられました。ご門徒ではなかったのですが、ご縁があって葬儀を執り行なわせていただきました。

葬儀式を終え、出棺時間が近づくと、親族の皆さんがそれぞれにお棺にお花を入れ、愛用されていた物も入れたりしながら合掌し、すすり泣く声も聞きました。「ありがとうございます」「お世話になりました」など様々な思いを言葉にしていらっしやいました。

そんな中、館内にひととき大きく響いた声が「また会おう」という力強い言葉でした。ごなたの声であったのかは定かではありませんでしたが、その言葉に私はつい涙腺が緩んでしまったのです。

「また会おう」。この言葉を発せられた方はどんな思いを込めての言葉だったのかは分かりませんが、また会えるという確信に満ちた力強い言葉は、この葬儀をより意義ある場として与えてくださったように感じました。

阿弥陀経に「俱会一処」(くゑいいつしよ)という言葉がありますが、お念仏申す者たちは、必ず浄土にて会う事ができるといわれています。

「法事や月命日、日常生活のあらゆる場において、私たちはお念仏の世界で出会い直してゆくことができるようにしたい。」

今月の掲示板

よい人
よい雨
よい天気
みんな私の都合



私たちはどこまで行っても自分の都合でしか物事の判断ができないものです。

お天気ひとつを例にとってみても、ある時は雨を望み、ある時は晴を望むといったことは何度も経験している事実ではないでしょうか。その度に本当に身勝手な自分がここにいるな、と気づかされてくることです。

それは人生のすべてにおいての価値判断ともなり「幸」や「不幸」は自分の都合が良ければ「幸」だと思えば、悪ければ「不幸」と捉え、一喜一憂の人生を歩んでいるのです。それはまさに「迷いの人生」そのものではないでしょうか。

まずはこの事実の一つ一つに気付かされていくことが、真に心豊か人生を生きるための出発点ではないかと思われてくるのです。何のために生まれ、何のために生きて行くのかという私の根本問題にも関わってくる大切な問題なのです。

お知らせ

今月の光受寺学習会はお彼岸の法話会に代えさせていただきます。

お寺サロンのお休みです。十月より開催改めたい案内申し上げます。

彼岸というのは、私たちの生きている世界を「此岸」(しがん)というのに対して、阿弥陀の浄土の世界を表しています。

お彼岸には春と秋とがありますが、昼夜の長さが同じになる「春分の日」「秋分の日」の前後3日間程度を当てています。

お彼岸って？

6月26日(土) 秋分の日
2時～3時頃まで
正信偈同朋奉讃
法話会 法話ビデオ視聴
お気軽にお越しください。

此岸(しがん)生死の迷いの世界にいる私たちが、悩みや苦しみのない世界に生まれたいという願いを叶えるのにちょうど良い時期だと考えられます。(彼岸が此岸に最も近づく時期であることから、向こう岸に渡りやすい時期)

慌ただしく過ぎ去ってゆく月日の中で、お彼岸を機縁とし心静かに亡き人を通して自らを振り返り仏法に耳を傾けたいものです。

新発意(しんぱち)誕生しました。

今年8月一人の孫が、本山でお剃刀を受けました。

新しいお坊さんの誕生です。一人はまだ小学生で、一人は中学生です。

将来のことは全く分かりませんが、お得度を受けようと思ってくれたことだけで住職としてはとても喜ばしく思っております。

法名を御門首から一人ひとり手渡され嬉しそうにしております。

皆さんどうぞよろしくお願いたします。

月命日、祥月命日、法事はお寺で。

お気軽にお申上げてください。

近年は核家族化が進み、それに伴って独居の家庭も年々増えてきており、様々な理由から、仏事が今まで通りに行きにくいというお悩みを抱えていらっしゃる方も多くなっております。

現在、当時におここの件ほど寺で月命日等をお勤めさせていただいております。御命日当日は朝7時半から8時頃にお勤めをさせていただきます。

お出かけいただくことが可能な場合は、ご連絡いただければ一緒にお参りしていただく時間を設定いたします。

ご質問にお答えします。

また、ご葬儀も自宅で行われるのが一番かとは思いますが、お寺をご利用いただくこともできますので、お気軽にお尋ねください。

最近は何とかが気軽に、便利であることからホールや会館をご利用されるのでぜひご利用いただければと思っております。

葬儀社を頼む上においても、よく心得て対応してくれると思っておりますので、それほど不便はないものと思えます。

ぜひご利用ください。

浄土真宗では「朱印は
いただけないのですか？

観梅会の頃にはよく「朱印を求めて
のお尋ねがあります。

光受寺では、ほとんどの場合お断り
はしていますが、記念に是非と懇願を
れお断りできない時もありますので、
そんな時にはあくまで記念として書い
て差し上げたいと思います。

本来浄土真宗では「朱印」としてお
書きするものはないので、「梅の寺」光
受寺であることがわかる形で書いてい
ます。

三十三か所巡りとか、八十八か所巡りとか様々な形でお寺めぐりをされる方が多いのですが、真宗ではそのお寺へ行ったことがあるとかないとか、すべてのお寺を回ったとかという参詣者の満足感や、達成感、「利益を期待すること」を目的としているのではないのです。

はたしてお寺とは朱印を集めるためにお参りするのでしょうかが問題。

真宗では、大切なこととしてお参りしたことがあるかどうかではなくて、お参りして教えるに出遇(あ)ったかどうかということの問題にしているのです。一度お参りしたから大丈夫とか、教えるの前に聞いたからもう聞かなくてもいい、などと言えないものではないのです。

お寺を回ったという達成感に腰を落ち着けてしまつのではなく、教える聞き続けようという立ち上がる思いこそ、尊いことなのです。

満足感や達成感自体力を当てた結果を期待するものでもありませんから、他力を要する真宗のお寺では、「朱印を出す」はいいないので。

皆様からの記事、「感想」、「質問」を募集しています。どんなことでも、結構ですのでぜひ協力いただければありがたいです。